

## 朝鮮における非識字克服の経験

ベラルーシ、国立獣医学アカデミー学生

E. ゴンチャロフ

国立獣医学アカデミー社会人文学部学部長

S. Y. デブヤチェク

朝鮮が日本帝国主義侵略者から解放された後の 1946 年 2 月 8 日、平壤では中央主権機関である北朝鮮臨時人民委員会が組織されました。

委員会には最も広範な階層の代表たちが網羅されました。

1946 年 3 月 23 日に発表された「20 か条政綱」で金日成主席は北朝鮮臨時人民委員会が遂行すべき政治、経済、社会・文化課題を提示しました。

政綱は教育分野で全般的な義務教育制を実施し、国家の経営する小・中・専門学校および大学を広範に拡張することと国家の民主的制度に基づき、人民教育制度を改革することの課題を明らかにした。

教育分野における第一次的な課題の一つは非識字退治でありました。

朝鮮に対する日本帝国主義植民地支配の初期から日本当局は朝鮮の教育機関への完全な統制権を握って教育システムを自分らに服従させることを目標としました。

日本は朝鮮の教育システムに対する指導を完全に掌握し、朝鮮の大臣には占領者のすべての勅令と指示にサインする義務だけを与えました。

すべての国立および公立学校の教員としては日本人が任命されました。

彼らがすべての教育問題を決定しました。

小学校では学齡児童の 35 パーセントだけが、中学校では 1.8 パーセントだけが勉強していました。

学校では民族別に、すなわち日本の学生と朝鮮の学生で区分されていました。授業は全部、日本語で行われました。

これが、教育分野で日本帝国主義が実施した「皇国臣民化」の政策でありました。

このような政策の結果、1945 年、国が解放された当時、成人の 230 余万名以上が非識字者でしたが、これは人民大衆の思想的・政治的水準を高める上で大きな障害となり、彼らを新しい朝鮮の建設に奮い立たせることに支障を与えました。

金日成主席は新しい朝鮮の建設を民族幹部育成活動と結びつけました。

主席は青少年の教育だけでなく成人の教育にも深い関心を払い、次のように述べました。

「成人学校を多く設置して、すべての勤労者がわが国の文字を学べるようにしなければ

ばなりません」

金日成主席は非識字退治路線を示しながらこのように強調しました。

「インテリが祖国と民族のために活躍すべき時期は到来しました。教員、インテリは当然新しい民主朝鮮の建設に各自の知識と技術をことごとくささげなければなりません。知識と技術は祖国の発展と人民の幸福のために利用されてこそ価値があり、輝きを増すものであります。インテリはその知識と技術によって祖国と人民に積極的に奉仕すべきであり、祖国の隆盛発展と民族の繁栄のために全力を尽くさなければなりません。」

金日成主席は非識字を毒薬に比べながらインテリが非識字と積極的に闘争し、非識字退治運動を繰り広げることをアピールしました。

「人民文化の向上は非識字退治から！」と言うスローガンを提示した主席はこの活動を党と国家の指導のもとに全社会的、全人民的な範囲で繰り広げるべきだとし、非識字退治運動の段階別の課題とその遂行のための具体的な方途を明らかにし、精力的に導きました。

これが、広範な人民大衆の非識字を退治し、彼らを文明的な世界へと導くための文化改造のはじめとなりました。

1946年11月25日、北朝鮮臨時人民委員会は農村で農閑期を利用して冬季農村非識字退治運動を繰り広げるという決定を採択しました。

1946年12月から1947年3月末までの4ヶ月間に非識字退治運動を大衆挙げての運動として繰り広げることにしました。

全ての都市と農村、漁村と工場に成人学校が組織され、首都と道都、市、郡と面、邑に非識字退治委員会が、全て里に非識字退治グループが組織されました。

北朝鮮各地で「知識は力で、無知は滅亡だ!」、「学びに学び、さらに学ぼう!」と言うスローガンを掲げ、老若男女を問わず、非識字退治運動を力強く繰り広げました。金日成総合大学の学生と教育機関の教員、各政党、大衆団体の多くの活動家がこの運動に動員されました。

1947年8月初、金日成主席は江原道平康郡西面玉洞里から来たり・ゲサン農民に会って彼女が非識字者であることを知りました。

主席は彼女に文字を習って自分に手紙を書くように話した。3ヶ月後、主席は彼女から文字を習ったとの素朴な手紙をもらって、彼女に回答を送りました。

当時、主席は文字を習った9万余名から手紙をもらいました。

今日、非識字退治運動を一般的に「リ・ゲサン運動」と呼んでいます。

非識字退治運動が発展するにつれ、主席はこの活動をより組織的な運動にならせるための一連の措置を取りました。

1948年5月22日、主席は中央非識字退治展覧館を訪れました。そこの活動家との談話で主席は非識字退治で収めた成果をかためる課題を提示しました。

主席は1948年12月から1949年3月末まで2回目に非識字退治運動を繰り広げるようにしました。

主席の発起に呼応して出た江原道平康郡の住民たちはこの運動に全人民が奮起することをアピールしました。

このアピールが効果を現しました。

国の各地で冬の期間に非識字者を完全に退治するための運動がより積極的に行われました。

学校と職場、家庭など全てのところで学習気風が確立しました。都市と農村、漁村、平野と山間地帯で老若男女が文字を習いました。

1949年3月、全国的範囲で非識字が退治されました。

北朝鮮は東方で非識字を完全に退治した最初の国となりました。

全人民的な非識字退治運動は勤労者の一般教育水準と文化・技術水準を体系的に高めて民主主義民族文化を積極的に建設する活動を推し進め、朝鮮で文化革命の端緒を開きました。

全般的非識字退治運動は新しい民主朝鮮建設において勤労者の積極性と創意性を抑制した古い思想の残滓と文化的・技術的後進性の一掃に大きな寄与をしました。